

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都練馬区石神井町8-53-32
園名	アスク石神井まち保育園

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

なるほどザ・ワールド ～日本と外国の文化の違い～

<テーマの設定理由>

もともと自園において、外国にいる元職員や、職員の友人の外国の方との交流を持つ機会があった。活動後には子どもたちが自ら図鑑などを開く姿があったため、すくわくプログラムとして探究活動を促していった。

## 2. 活動スケジュール

6月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出した。また、テーマの国によってはスペシャルゲストとして、現地の方を招待し子どもたちに直接現地の文化を知らせる機会を設けた。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6～11月:テーマ国を設け言葉や食べ物、ゲーム遊びなど様々な観点から文化について探求する。

12～3月:今まで調べた国からもっと深く知りたい国を決め、探求する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・図鑑(MAPS、国旗、世界の料理など) ・ipad
- ・ほぼ日アースボール(地球儀)
- ・壁掛け時計(時差)
- ・国旗のフラッグ
- ・ピクチャーレール(時計や地図を飾るため)

講師を招いての活動後、少人数グループに分かれて印象に残ったことを描いたり話し合ったりする活動を行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

問いを考える:異文化理解～国ってなに？～

①地図を前に「皆が住んでいるところは？」「日本はどこ？」「○○国はどこかな？」「隣の国は？」「日本みたいに周りが海だ」等、キャストの英語で知った国(地域)について興味が広がる問いかけをした。

②色々な国があることを知ったことで、地図やMAPSを見るようになり、ページをめくる子どもたちに「その国にはなにがいるの？あるの？」と問いかけた。

③小グループで旗や国のクイズを出し合い盛り上がる姿も出てくるようになった。

④英語キャストやゲストの一つの国にフォーカスした探究活動が深まった。

様々な国でどんな食べ物、言葉、文化、自然(動物)があるかを英語の単語で知ったり、問いかけに答える中で、子どもたちが興味に合わせ動物や食べ物をコアに各国の比較をする探求を深めた。

探究活動の様子:

- ・一つにフォーカスすることで、他の国への興味が広がっていった。
- ・多くの旗と国を知ることで、知る楽しさ、知識が増えていく喜びが広がりとなり、自分たちでMAPSや動物図鑑を開く習慣に繋がり、クイズで遊ぶ姿が増えていった。
- ・動物の活動では、鳴き声が国によって違うことを知ったり、視覚的素材を通しイメージが出来たり想像力が膨らんだことで、質問が増え言葉の成長が感じられた。
- ・国旗や動物カード、カルタを自分たちで行うようになったことで文字にも興味を持ち、ひらがなを読んだり、読もうとする姿が見られた。日常にキャストで知った英語を取り入れたことで、英語と日本語の違いを自然に受け入れられるようになり発語もスムーズになった。

ふりかえり(保育士の気付き):

・ある程度の環境を用意していったが、地図を前にクイズをしたり、MAPSを開いて気づきを伝えあったり、自分たちでゲームやフィギュアで分布図に合わせ遊んだり、クッキングを積極的にし家庭でも行ったりと、思った以上に主体的に取り組んでいた。

今後は地球や宇宙の単語が子どもから聞こえるようになったので、日本→世界→地球→宇宙と興味の広がりを継続的な活動にしていきたい。動物についてもより分布が理解できる＋生態等知識の幅を広げていける環境を作っていければ良いと思う。その都度キーワードを英語でも確認しフラッシュカードで取り入れていく。

##### 【4歳児実施分】

問いを考える:「異文化理解～自分の国のこと、世界の国のことを知ろう」

キャストや保育者、クラスの保護者が紹介してくれる国について触れたことをきっかけに世界の国に関心を持ち始めました。日本との違いや共通点を見つけると「こっちは国はどうだろう」と図鑑や地図を使って調べる姿が出てきました。また実際に現地の人との交流をする中でアメリカのゲームを教えてもらおうと名前や掛け声は違うが日本にもあるゲームであることに気が付き、過去に探求した国のゲームにも関心を持ち、もう一度掘り下げる活動になりました。ボールを使った的当てのようなゲームがなかなかうまく当てられなかったため、「どうしたらボールが当たるのか」と問いかけをし、少人数で考え意見を出し合う機会を設けました。最後の活動として、日本の文化に触れると、他の国のお正月が知りたい！という子どもの声から「他の国にもお正月はあるのか」という問いかけをしました。

探究活動の様子：

世界の国に触れる中で、挨拶、言葉、食、文化、服、建物などに興味が広がっていきました。国の違いだったり、日本の車が他の国でも走っていることや食べている料理が実は他の国で生まれたものであることを知り、共通点にも気づきました。そこから自分たちで図鑑、MAPS、世界地図などを使い、小グループでテーマの国について調べ、聞いた話と同じところを見つけ理解を深めたり、意欲的にこの国の挨拶はなにか？などを知ろうとする姿が出てきました。実際にアメリカの人と交流した時には同じようなゲームでも掛け声やゲームの名前が違うことに興味を持ち、他の国のゲームにも関心を持ちました。ゲームを楽しむ中でボールをどうやったら的に当てられるかを考え、お家の人とのキャッチボール遊びの経験が活動に生きることもありました。様々な国に触れた後で、最後のテーマを日本にすると、日本のお正月が他の国にもあるのかという子どもたちからの疑問をきっかけにフランス、アメリカのお正月について知り、過ごし方や食べ物など文化の違いを小グループで比較しました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

様々な国について知る中で普段接している保育者以外の大人や年上の人との関わりを多く持つことが出来ました。実際にその国の人と関わるという貴重な経験により、肌の色や言葉など、国による違いを間近で感じられたのではないかと思います。言葉の違いに戸惑う姿もあったが、すぐに日本語でも話しかけたり、関わろうとすることで色々な人と関わる「社会性」を養う経験にも繋がっていました。新しい国のことを知る時には挨拶、食、言葉などおおまかなテーマについて聞くことが多かったが、逆にそのことについて触れなかった時には子どもの方から「これはどうなんだろう？」という疑問が出てきたことも多く、こちらから広げるよりも先に子どもから知りたい！と意欲的に楽しく取り組むことが出来たのは良かったです。

#### 【5歳児実施分】

問いを考える：「自分の国以外にどんな国があるか知ってる？」

MAPSの本を用いてまずは色々な国があることを知りました。英語講師の出身国であるインドに興味を示し「インドの人は本当に手で食べるのかな」「なんでだろう」と問いが生まれ質問したり、国旗や食べ物、時差についての興味関心が広がりました。

た。毎月、英語講師と保育園での異文化理解の活動を統合してフィリピン、カメルーン、オーストラリア、アメリカ、スリランカ、日本のことを知る機会を作り、子どもたちの「どうして」「なんで」という疑問を図鑑やWEB資料から調べていく中で自分の国と違うところや同じところはあるかなど興味関心が深まっていきました。なかでも「ほぼ日アースボール」という地球儀を使ってリアルタイムの地球を覗く体験には「私たちは朝なのに暗いから夜なの？」と時差を子どもたちが理解した瞬間を実感しました。活動を通して学んだ国旗を「ハチマキに描いてオリジナルのコスチュームにしたらどうだろう？」や発表会でのセリフを「英語では何て言うんだろう」と問いかけたり「みんなのわくわくする言葉を英語にするとどうなるのかな」と子どもたちの関心に合わせて問いかけました。

探究活動の様子：

- ・色々な国を知っていくうちに、まずは国旗に興味を持ち、「アフリカの国旗ってみんな似てるね」と自分たちで国旗の本を見て「カメルーンに似ている国旗」を紙に書き出し、そこから国旗を真似して自由に描く姿が見られる様になり運動会のハチマキ製作に繋がりました。小グループの活動にすると「フランスとイタリアって似てるよね、だから隣に描いてみた」や友だちが描いているものからアイデアをもらい自分たちで好きな国旗を描いて取り組んでいました。
- ・発表会ではアラジンの世界観がスリランカと似ていると感じ、町の人々の衣装に取り入れたり、役名を紹介するセリフを「英語で言ってみよう」と「My name is アラジン」とセリフを変えたり、一人ひとりが自分のセリフから簡単な英単語に変換して発表する機会となりました。役の小グループごとに練習する姿も見られました。
- ・日本の文化に触れる探究活動の時には書道パフォーマンスの際に書く言葉(わくわくする言葉)を子ども会議を開いて子ども同士話し合いをして「未来」「地球」「大冒険」に決まりました。英語講師と一緒に英単語に直して小グループで英語スペルを模造紙に書いたり、言葉から想像する絵を自由に書く姿が見られ、何の絵か尋ねられると「地球だから宇宙人を描いたんだよ」と子どもたちの豊かな発想で楽しんでいました。また、グループごとに年下クラスへ発表することで英語講師から教わった英単語を知らせ自分たちの活動の報告が認められることを喜んでいました。
- ・廊下にテーマ国の時間に合った時計を設置すると、「これは昼なのかな、夜なのかな」と新たに疑問に持ち、アースボールを使って自ら調べようとする姿がありました。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもたちが自由にMAPSの本を開いて「今日は何の国にする」とまるで旅をしているかのように色々な国を調べ、国旗や食べ物に興味広がる様子に感心しました。英語講師の出身地がまず始めの一歩となり、問いが生まれ質問して「なるほど～」と理解した時に子どもたちの探求心が広がりを見せ、自発的に調べる力が養われたり、好奇心を持つきっかけとなることを実感しました。保育者として子どもの問いに単に答えるのではなく「なんでだろうね」と一緒に図鑑やウェブ検索したり、時には保護者の方に協力してもらいながら共に探求して取り組むことが出来たのは良かったです。また、子どもが興味を持った時差についてどのように伝えれば良いか悩んでいた時に「ほぼ日アースボール」を活用したことで子ども自身が思考し答えを見出す姿を側で見守り成長を感じる瞬間となりました。英語講師と園独自の異文化理解を統合し毎月色々な国を知り、国旗からオリジナルハチマキを製作したり発表会で堂々と英語のセリフを言ったり、グループ活動を年下のクラスに披露できたことで子どもたちの自信にも繋がったと思います。クラスの垣根を超えて園全体で問いを考え、時にはクッキング保育でその国の食文化に触れることで多様性を理解して差別や偏見のない思いやりの心も育むよい機会となりました。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児





4歲兒



5歳児



# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都練馬区石神井町8-53-32
園名	アスク石神井まち保育園

## 1. 活動のテーマ

なるほどザ・ワールド ～日本と外国の音楽の違い～

### <テーマの設定理由>

もともと自園において、外国にいる元職員や、職員の友人の外国の方との交流を持つ機会があった。活動後には子どもたちが自ら図鑑などを開く姿があったため、すくわくプログラムとして音楽の方面からも探求が出来るようにした。

## 2. 活動スケジュール

6月から3月まで行い、月に1回おんがくの講師を招致し他国の音楽文化に直接触れる機会を創出した。また、テーマの国によってはスペシャルゲストとして、現地の方を招待し子どもたちに直接現地の歌や言語を知らせる機会を設けた。その時点での子どもたちの興味関心をもとに問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにした。

6～11月:テーマ国を設け歌や音楽、楽器など様々な観点から日本と外国の音楽の違いについて探求する。

12～3月:今まで調べた国からもっと深く知りたい国を決め、探求する。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・図鑑(MAPS、国旗など)
- ・グロッケン            ・アゴゴウッド
- ・シンバル              ・シンバルグリッパ
- ・スリットドラム      ・チュール

講師を招いての活動後、少人数グループに分かれて印象に残ったことを話し合ったりする活動を行った。

#### 4. 探究活動の実践

##### 【3歳児実施分】

問いを考える:「どんな音がするかな？」

インド、イタリア、フィリピン、フランス、カメルーン、オーストラリア、日本と様々な国をテーマにその国で使われている楽器や音楽、歌や動物の鳴き声を題材に、どんな音がするかな？と実際に楽器を鳴らしたり、歌い方を真似たり、似たような楽器を自分たちで作り叩いてみたり、動物になりきって歩いてみたりした。その活動の中で子どもたちのつぶやきを聞き、例えば「この音を色にしたら何色だと思う？」と色への関心が広がる等、興味のあることについてさらに探求をしていった。

探究活動の様子:

キャストの音楽で様々な体験をしたあと、世界地図やMAPSでその国を見ることで他の国はどんなだろうとたくさんさんの国について知りたいと思うようになっていった。この国にはこんな動物がいるなど自分たちで見て調べて学ぶことが出来た。また、音を聞いて「どんな色を感じた？」と感じた色を各色揃えたチュールから「自分の色」を選んでその音楽に合わせてひらひらさせる。この経験が色とりどりの国旗への興味にも繋がった。そしてフラッシュカードや国旗カルタでたくさんの国旗を覚えていった。

実際にズームなどで外国の方との話を聞いたり、園に来てくれた外国の方とコミュニケーションを取る中で、時差があることや食べ物や気候の違いがあることを知り、とても興味深く聞いていた。異文化を学んだことをきっかけに発表会では英語劇に挑戦し、好きな色の歌、英語の歌、国旗カードの発表も行うことが出来た。

ふりかえり(保育士の気付き):

日本に生まれ、日本で生活をしているが、音楽に触れることを入口に世界にはたくさんの国があって文化も人も習慣も食べ物も全く違うことを知ることができた。はじめて知ることばかりで驚いたりする子もいた。子どもたちのなんで？どうして？を深掘りしていったことで、子どもたちも興味を持ち、わくわくする気持ちが伝わってきました。

大人や保育士が全部導いてあげるよりも、子どもたちが考え出したものの方がやりたい、知りたいという気持ちが強くなり意欲的になることが、すくわくの活動を通して感じる事が出来ました。

##### 【4歳児実施分】

問いを考える:「世界の音楽や楽器にはどんなものがあるのか」

キャストや保育者、海外からのゲストに様々な国、地域を紹介されることをきっかけに、普段触れている音楽とは違う曲調(アラビア、アロハ)や文化(オペラ)、その国でよく使われる楽器などに関心を持ちました。楽器作りではアフリカの打楽器を真似て自分たちで太鼓を作り、音を出してみると、友達同士で音の響きの違いに気づいたところから「なぜ音が違うのか」「どうやって音が出ているのか」という問いかけをした。楽器に触れたり、その国の特徴的な曲調を知ると、もっと弾いてみたい！という声やこれ○○と一緒に！と身近なもの結びつける姿があったので、「他にはどんな楽器があるかな」「どこが違う、同じところは」と子ども同士で話し合ったり、考えるような問いかけを投げかけ興味を広げていった。

また、様々な国を知る中でその国の音楽以外のことにも関心を持つ姿があったので、小グループに分かれて「どんな国だろうね」と調べるなどした。

探究活動の様子：

様々な国の音楽や楽器に触れていくうちに、その国そのものに興味を持ち始め、小グループに分かれ、MAPSや世界地図、図鑑を使い挨拶、食、文化を調べていった。調べて疑問を持ったことはその国の人や保育者などに質問をしたり、話を聞くことで理解を深めていった。日本以外の音楽文化に触れる中で、日本の音楽との共通点や違いに気づく姿もあり、キラキラ星のメロディのABCの歌を口ずさむようになったり、ドレミの音階にも興味を広げた。アラビアやアロハの音楽では曲調が大好きなディズニーに出てくる曲と一緒に！という気づきからアロハ・エ・コモ・マイのダンスを異年齢で教えてもらい踊った。ピアノ、タンゴドラム、フレームドラムなど実際の楽器を使った活動や太鼓づくりでは音の違いに関心を持ち、楽器の作り、音の出方を小グループで自分たちで作りながら比較していった。また実際に楽器に触れる経験を積み重ねていくうちにもっと色々な楽器に触れたい！という思いが芽生え、より多くの楽器を用意することで楽器同士の違いや共通点を探求したり、クラスのみんなで、キラキラ星に合わせて好きな楽器で演奏するなどの取り組みをした。

ふりかえり(保育士の気付き)：

子どもへの問いかけが難しかった。子ども自身が自分の知識や経験と結びつけて発想を広げようとする姿を目の当たりにすることで、子ども自身が気づくためにはどう声をかけたらいいのかという自分自身の成長の機会にもなった。これまで子どもたちが自分で考える機会が少なかったのかもしれない。グループに分かれて話し合う中で、図鑑のイラストや文字から子どもなりに読み解こうとする力があることに気づかされ、また、保育者の視点では気づけないことを子どもに気づかされることもあり、成長を感じた。子どもの声から次はこれをやってみよう！と広げていく活動が難しくもあったが、子どものやってみよう！知りたい！を掘り下げていくことで新たなことに興味を持つきっかけになった。

【5歳児実施分】

問いを考える：「国によって色々な伝統楽器や音楽があるのを知ってる？」

英語講師との活動でアラビアの文化に興味を持ち始めていたので「アラビアの音楽ってどんなかな？」という問いかけをしました。アラビアの曲調を知り、音楽講師と実際にピアノでアラビア音階の鍵盤(ミ $\flat$ 、ファ $\sharp$ 、ラ $\flat$ )を触って楽しみました。そこ

から「他の国はどんな音楽なんだろうね」と関心が深まり、毎月音楽講師と園での異文化理解の活動を統合してイタリア、フランス、アフリカ、アメリカ、スリランカを知る機会を作りました。日本の音楽と違うところや他国の楽器を鳴らして「太鼓を作ってみよう」やアメリカの方を招いてキラキラ星の日本語バージョンと英語バージョンがあることを知りました。曲は同じでも歌詞の違いに気づき「私たちも歌えるようになりたい」とWEB資料から歌詞を調べ子どもたちの興味に合わせた探究活動をしてきました。オペラ歌手の歌を聞いた時には「どうやって大きな声を出してるんだろう？」と問いを考えたり、音楽会での活動を通して色々な楽器を使って演奏したり楽器の種類をグループ分けするなど子どもたちの関心に合わせた問いかけをしてきました。

探究活動の様子:

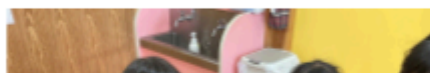
- ・色々な国の音楽を知っていくうちに、その国ならではの楽器があることに興味を持ち、アフリカのハンドドラム(ジャンベ)を作ってみよう!と園やお家から筒状の廃材を集め風船をつけてハンドドラムをグループごとに作りました。小グループで作ると「○○ちゃんの音と私の音が違うね。なんでだろう。」や「交換してみよう」と子どもたち同士で話し合いながら探求している姿が見られました。また、アフリカの音楽に合わせてジャンベを鳴らし身体を動かして自由に踊る姿が印象的でした。
- ・10/20にアメリカの方たちと交流した際には英語バージョンのキラキラ星に心を打たれ「私たちも歌えるようになりたいから歌詞を調べて」という声が上がりました。また、オペラ歌手の歌い方を真似して「あくびをするよゆに口を開けて歌うと良い」と音楽講師からの助言を思い出し意識している姿が見られました。小グループでそれぞれ歌い、互いの良かった点やこうした方が良いと改善策を探求し発表会での演目の一つとして取り組みました。
- ・楽器遊びでは、今まで園にあった楽器に加えてシンバル、ハンドベル、グロッケン、アゴゴウッド、タンゴドラム、スリットドラムを取り入れ音の特徴に気づき種類を分けてみたりグループごとに自由に鳴らして友達と一緒に演奏する楽しさを知り、発表会や音楽会という大舞台上で演奏する良い経験となりました。

ふりかえり(保育士の気づき):

子どもたちがいろいろな国に興味を持ち、その国の音楽や楽器に関心を広げ、MAPSの本や地球儀を見ながら「この国のことだったんだ」と結びついた時に好奇心や探求心が芽生え、次への活動に生かされていると感じました。自分で楽器を作るグループ活動では風船を筒になかなか付けられずにいる友だちに「こうするといいよ」と教えてあげたり、筒をもって支えてあげるなど手を貸してあげる姿に社会性も育まれていることに気が付きました。最後に皆でオリジナルのジャンベ楽器で楽しそうに踊る姿は圧巻でした。アメリカの方たちと交流した際には自分たちが幼いころから口ずさんでいたキラキラ星を歌う姿に驚き、自分たちも歌えるようになりたいと声があがった時には「音楽に国境はない」という言葉を私自身が気づかされた瞬間でした。また、色々な楽器に触れ音の特徴に気づき、みんなで演奏するには何を大切にすればいいか子どもたち自身が主体となり活動できるよう進められたのは良かったです。毎月、音楽講師と活動の内容を共有し環境設定を整えることで子どもたちが今、興味関心を抱いている事柄を探求しすくわく活動に取り入れ、発表会や音楽会で披露することで子どもたちの自信にも繋がったと思います。音楽は異文化理解を促進し、世界とのコミュニケーションツールとしての一つの手段であることを知る機会となりました。

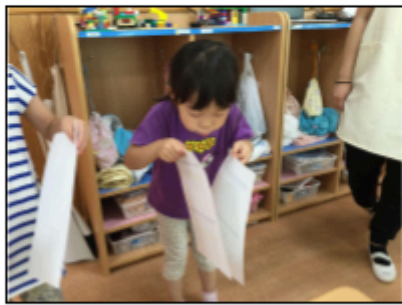
5. 活動の様子が分かる写真

3歳児





4歳児



5歳児

